

令和3年度 青葉区福祉保健活動拠点事業実績評価の実施について

1 目的

福祉保健活動拠点（以下、拠点）における事業水準の維持向上を図ることを目的として、平成28年度から事業実績評価を実施しています。

2 評価対象施設

(1) 名称

青葉区福祉保健活動拠点

(2) 所在地

横浜市青葉区市ケ尾町1169番地22

(3) 指定管理者

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

3 評価方法について

(1) 評価対象期間

令和3年4月～令和4年3月

(2) 評価期間

令和4年1月

(3) 評価内容

拠点の運営に関する事項について、ヒアリング及び事業実績評価用資料等に基づいて、評価を行います。

(4) 評価項目

令和3年度の評価項目については、別紙1のとおりです。

4 評価結果について

評価結果については別紙2のとおりです。

福祉保健活動拠点 事業実績評価 評価表

大分類	中項目	配点 (区評価者 2名)
1 場の提供	(1)場の提供を通じた関係性の構築・利用団体支援	20
	(2)拠点の利用促進に関すること	10
	(3)拠点のサービスの向上に関すること	5
	(4)利用調整会議等の開催	5
	小 計	40
2 ボランティア業務	(1)ボランティアに関する情報収集、分析、計画立案	10
	(2)ボランティアに関する広報、情報提供	10
	(3)ボランティアに関する相談、紹介	10
	(4)ボランティアに関する育成・支援・講座開催	10
	小 計	40
3 他の関連 組織とのネット ワーク	(1)関連組織及び地域との連携	5
	(2)地域の福祉保健課題への理解と協力	10
	小 計	15
4 ほか	(1)職員体制、育成	5
合 計		100

令和3年度 青葉区福祉保健活動拠点事業実績評価結果

【評価の考え方】

評価	内容
S	・特筆すべき実績・成果が認められ、事業の実績が優良な施設 (点数評価に換算すると概ね90%以上の得点の施設)
A	・事業の実績が良好であった施設 (点数評価に換算すると概ね60%以上90%未満の得点の施設)
B	・改善の必要性が多数認められ、事業の実績が良好でない施設 (点数評価に換算すると概ね60%未満の得点の施設)

施設名	指定管理者 (受託者) 名	評価	評価内容
青葉区 福祉保健活 動拠点	(社福) 青葉 区社会福祉協 議会	A	<p>【1 場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者懇談会については、コロナ禍の影響でこの2年開催が難しい状況が続いています。開催ができない場合も、例えばアンケートを実施するなど、コロナ禍での活動の工夫を共有し、つながりづくりに寄与する取組をお願いします。 ・フードパントリーなど、コロナ禍において需要のある活動については、場の確保や必要な方に情報を届けることが重要な要素となると思われます。 ・各団体が横断的に繋がることにより支援の和が広がり、支援を必要としている方にとって有益となる活動が広まる様、引き続き活動拠点としての機能を存分に活かすことを期待します。 ・コロナ禍で稼働率が低い状況のなか、webの検討やサルースの活用等、広報や効果的な予約についての工夫について検討していただきました。 ・場の提供には、積極的かつ定期的な広報も必要だと思われます。場所を周知するターゲットを定めるなど、効果的な利用促進をお願いします。 ・コロナ禍での広報手段としては、HPやWebの導入、地域FMでの定期放送等をさらに有効活用するとともに感染対策も万全であることや、空調・換気等の徹底により安心して利用いただけるというイメージアップについても工夫をお願いしたいと思います。 ・窓口満足度調査の実施について、従前の方法に加えて利用団体に直接配付するなどの工夫をしていただき、前年度を上回る回収を行っていただきました。 ・窓口満足度調査の結果を分析し、改善に役立てていただくことは、利用者の声を運営に反映していることとなります。これは、併せて広報・周知も必要と考えますので、今後の工夫に期待します。 ・利用者からの利用申し込みや方法に対する意見に対して、どのように反映や改善したのかを見える化することで、より使いやすい拠点となると思います。また、コロナ禍での利用予約につ

			<p>いても、利用者目線で具体的な改善を図っていただくことを期待します。</p> <p>【2 ボランティア業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実施することの難しさがあつたと推察します。コロナ禍だからこそその活動や、新しいニーズもあることと思いますが、これらについてアンテナを広げて、きっかけづくりやボランティアニーズとコーディネートの融点を探っていただき、拠点としての一つの機能としていただくようお願いします。ぜひ次年度に向けて区域全体を面としてとらえた情報収集・傾向分析、分析結果の計画への反映をお願いします。 ・多世代を見据えた多様な広報にチャレンジしていただいています。区内の学生等、ターゲットを定めた広報を行うことで、区社協の事業でのつながりなどがボランティア業務につながることを期待しています。 ・福祉教育等の支援など、しっかりと行っていただきました。次年度はボランティアの登録件数、相談件数、依頼件数、調査数、紹介数等について、それぞれ増減の傾向に対して分析していただき、ボランティアのコーディネート業務に生かしていただければと思います。 ・青葉区の特徴の一つである、区内6大学への情報提供により、学生がボランティア活動に興味を持っていただければ、特に福祉面等で将来に繋がるかもしれません。コロナ禍だからこそできることを一考いただければと思います。 <p>【3 他の関連組織とのネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおばコミュニティテラスなど、新しい連携を積極的に取り組んでいただきました。次年度もぜひ積極的な連携をお願いします。 ・食支援をはじめ、コロナ禍だからこそそのニーズや必要な活動が発生していると思われます。これらの活動をしている団体が広く周知され横断的な繋がりが広がれば、面的活動の展開やより多くの方に支援が届くことになるかと思ひます。また、各団体の特性や得意分野等を補完しあうことも可能かもしれません。このような点について、拠点機能を発揮していただければと思います。 ・地域の課題解決に向け、地域の様々な活動がより活発となることが大切と考えます。各地域や各団体では、場・情報・人材・財源等が課題であると感じているケースもあるため、引き続き拠点が課題解決に必要な支援を行い、結果として第4期地域福祉保健計画の推進に繋がるようお願いします。 ・次年度は第4期地域福祉保健計画の推進年になります。区計画の取組や地区別計画を活用した学生と地域のコーディネートなど、次年度も引き続きよろしくをお願いします。 <p>【4 その他】</p>
--	--	--	--

			<ul style="list-style-type: none">・ボランティア団体へのヒアリングはできなかったとのことですが、コロナ禍だからこそ新たなボランティアニーズを掴んで、ボランティア活動の新規開拓とコーディネートを拠点機能の大切な一つとして期待しています。・ミーティングや日報、連絡ノートなどを通じて情報共有を行っていただいています。コロナ禍での対応は各 18 区でも同様の課題をもっている拠点も多いかと思しますので、横の繋がりを生かした情報共有等もご検討ください。
--	--	--	--